

専門ワーキング報告、および水鳥プロジェクトの活動報告



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

1. 水辺環境・鳥類(合同)ワーキング報告

(1) ワーキング開催概要

東部(中海周辺エリア)、西部(宍道湖・斐伊川・神戸川周辺エリア)に分け、生息環境づくり等について議論を行った。

日 時	(東部) 2026年3月12日(木) 19:00~20:50 (西部) 2026年3月13日(金) 10:00~12:00	
場 所	(東部) 米子水鳥公園 会議室(オンライン併用) (西部) 国土交通省 出雲河川事務所 大会議室(オンライン併用)	
参加メンバー (東部)	(公財) 中海水鳥国際交流基金財団 常務理事 米子水鳥公園ネイチャーセンター 館長	神谷 要
	(公財) 中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園ネイチャーセンター 統括指導員	桐原 佳介
	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 理事	津森 宏
	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 副支部長	土居 克夫
	(公財) 中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園ネイチャーセンター 指導員	三原 菜美
(西部)	日本野鳥の会 島根県支部	北脇 努
	島根大学 非常勤講師	佐藤 仁志
	日本野鳥の会 島根県支部	野津 登美子
	日本野鳥の会 島根県支部	秦 智秋
	(公財) ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所 主席指導員	森 茂晃
その他	環境省、協議会参加自治体の関係部署	
	国土交通省 出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	・ 大型水鳥類の生息環境づくりについて ※ この他、2025年12月に飛来したナベヅルの追跡調査について報告を行う等した(西部)	

(2) 主な議事内容

◆大型水鳥類の生息環境づくりについて

自然再生事業の進捗状況に応じた資料を提示し、意見交換を行った。

エリア	地名(市町名)	報告内容
東部	米子水鳥公園(米子市)	土砂投入(2026年3月実施)
	中海沿岸(松江市他)	自然再生事業実施候補地
西部	斐伊川西代橋下流(出雲市)	ワンド整備設計図(案)
	斐伊川河川敷公園周辺、宍道湖沿岸部(出雲市)	自然再生事業候補地
	斐伊川河口左岸出島地先(出雲市)	土砂投入(2025年12月実施)、およびその後の土砂堆積状況

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・ 自然再生事業により工事が行われた後の管理について確認したい。米子水鳥公園も、大型水鳥が訪れる良好な環境を維持するために人手をかけている。(東部)
→高い効果が期待できる場所で、維持管理・モニタリングも含めた自然再生を進めていく。(事務局)
- ・ これまでも出島地先では砂嘴に溝を掘ってもらっているが、現在は砂が堆積し陸側がつながっている状態で、キツネ等が夜間行き来している。(西部)
- ・ 沖合に砂州を作る工事ができれば、水鳥にとっても良い。(西部)
→水中でも運用可能な重機の運用が管内でも始まっている。検討する。(事務局)

※ この他、ツル類の生息環境づくりについて、越冬時、流域で何を食物資源としているか調査が必要との意見を得た。

今後の方向性

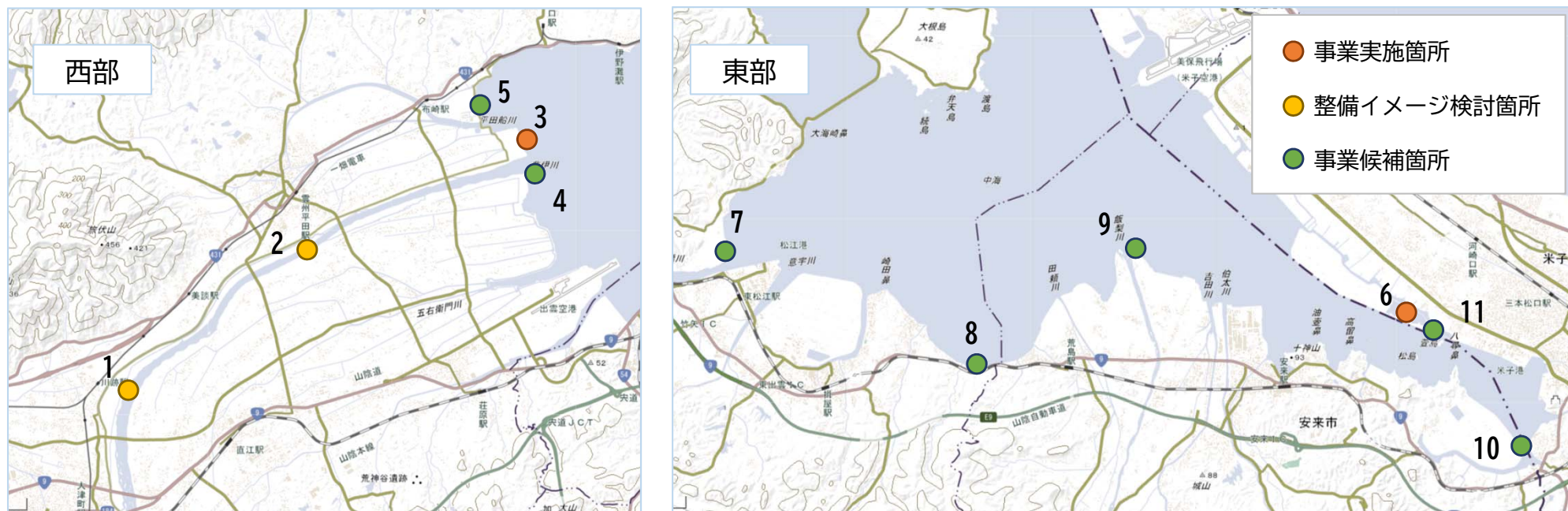
自然再生事業の推進

- ・ 引き続き、ワンド整備や浅場整備などについて、検討を進める。
- ・ 米子水鳥公園は企業との連携等も視野に入れ、環境改善の取組を進める。

短期目標の評価結果とりまとめ、今後の展開(タスク)に関する検討

- ・ 生息環境に関連する各目標の取組状況を整理し、達成状況の評価取りまとめを進める。

ワーキングに示した事業地（予定地、候補地含む）



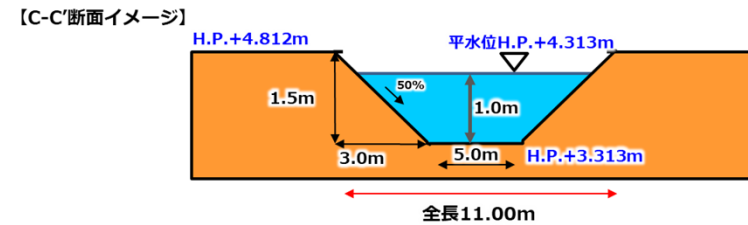
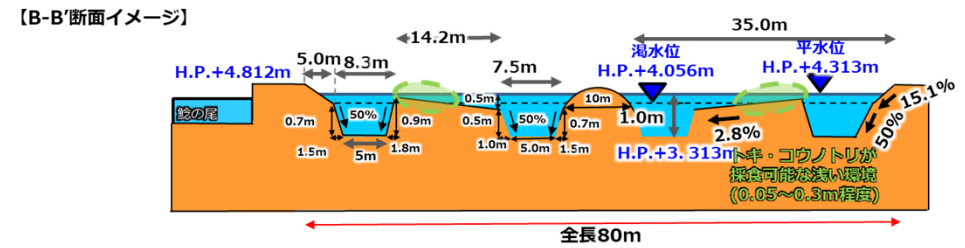
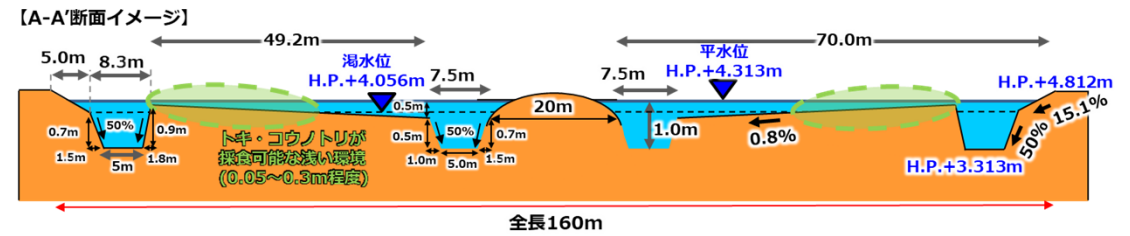
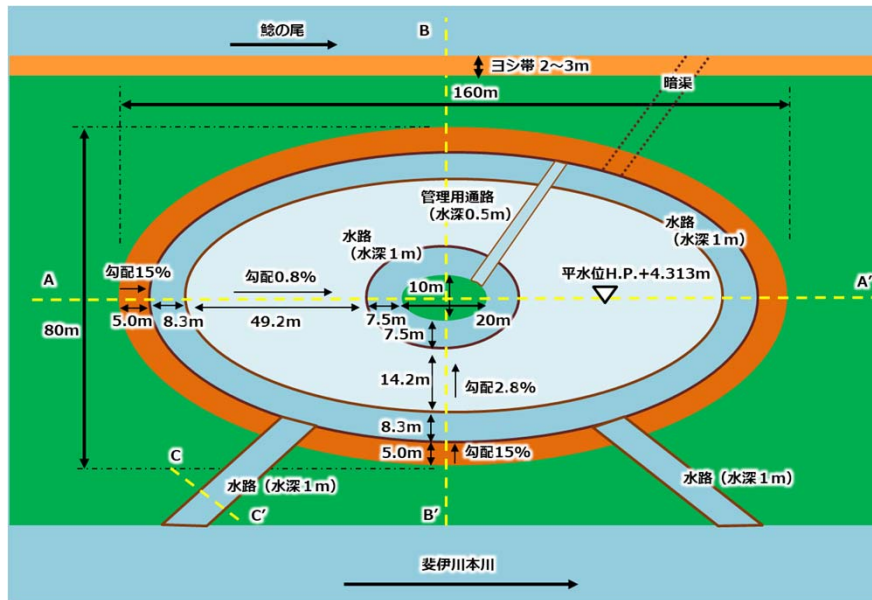
1. 斐伊川河川敷公園周辺（出雲市）

大型水鳥のねぐら・休息地となる自然裸地の再生を目指す事業の概要を提示。



2. 斐伊川西代橋下流（出雲市）

多様な生物が生息可能で、大型水鳥の採食地としても機能するワンド構造案を提示。



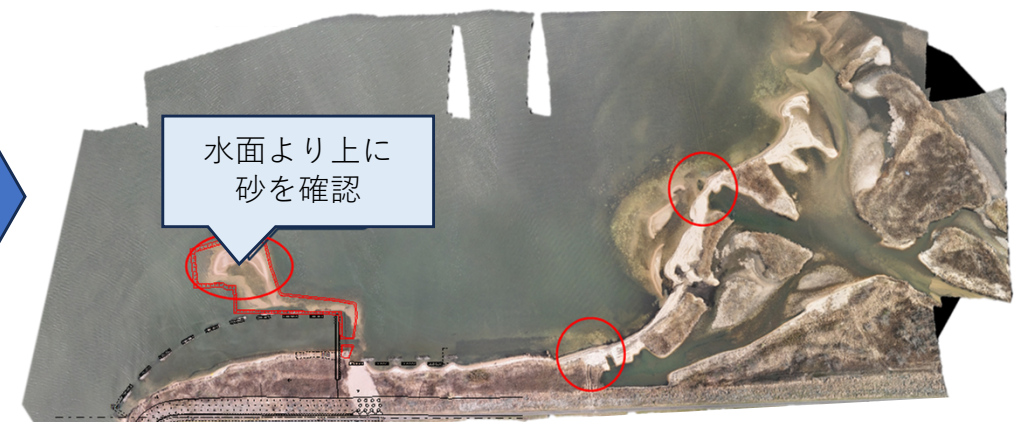
3. 斐伊川河口左岸出島地先（出雲市）

大型水鳥が安心して休める環境づくりを目指し、2025年12月に土砂を追加投入。

12月18日完了



2026年2月5日追跡調査



4・5. 穴道湖沿岸（出雲市） 今後の事業候補地を提示。



6. 米子水鳥公園（米子市）

波浪により公園内の浅場が侵食・消失し、大型水鳥の生息環境の質が低下しているという問題に対し、近傍の排水樋門前に堆積した土砂を再利用し、自然再生を進めることとした。

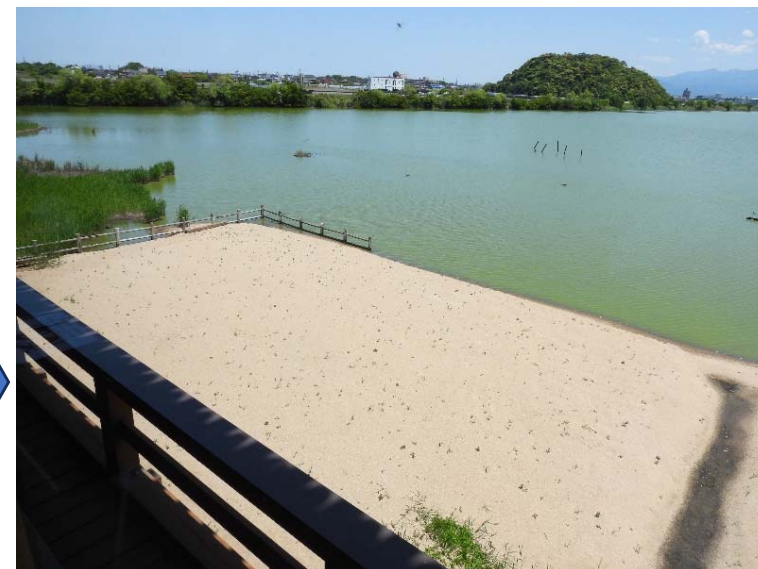
2026年3月、同公園の前浜に撤去土砂を運搬し、敷きならしを実施。



堆積土砂を撤去した状況



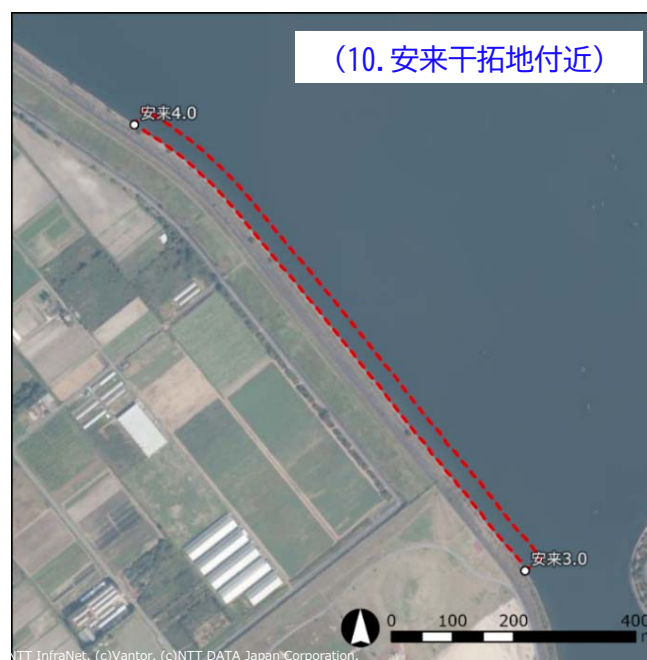
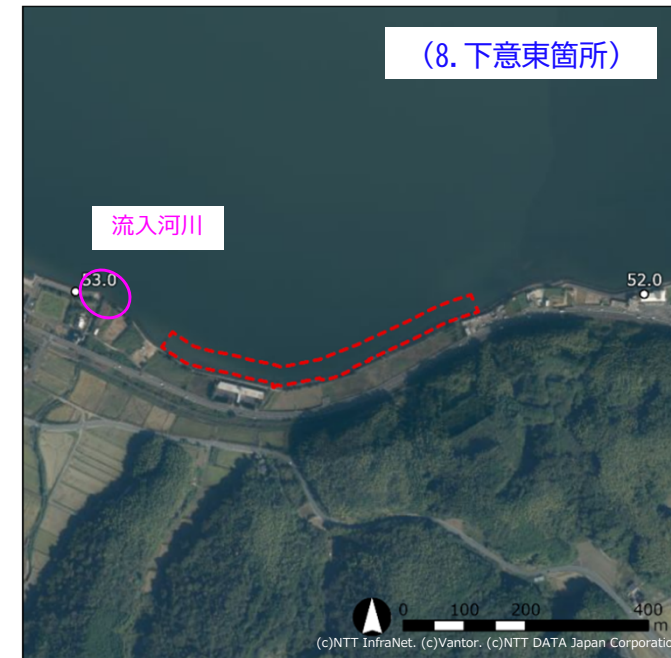
公園つばさ池前浜に運搬された土砂



土砂の状況（2026年5月11日撮影）

7～11. 中海沿岸（松江市、安来市、米子市）

今後の事業候補地を提示。



2. 農地環境ワーキング報告

生態系ネットワーク形成

地域ブランド確立

地方創生

(1) ワーキング開催概要

2026年6月16日(火)に、生物多様性保全型の水田農業の推進と、農地管理の担い手不足解消に向けた検討について、意見交換を行った。

日 時	2026年6月16日（火）14:00～15:30		
場 所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加 メンバー	農事組合法人 野尻の郷 代表理事	柿本 榮	
	コウノトリの会春殖 事務局長	鳥谷 秀和	
	農事組合法人 むすび営農組合 代表理事	佐藤 文男	
	つちのと舎	三瓶 浩己	
	株式会社出雲村田製作所 管理部EHS推進課 マネージャー	大畑 裕亮	
	株式会社島根富士通 装置製造部	持田 新	
	島根島津株式会社 管理部総務課 課長	竹内 均	
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	（公財）日本生態系協会		
議題	①斐伊川水系における生物多様性保全型の水田農業の推進について ②農地管理の担い手不足解消に向けた検討		

(2) 主な議事内容

◆斐伊川水系における生物多様性保全型農業の推進について

- ・「人と自然にやさしい水田農業の工夫」の周知を目的としたウェブサイトの頁新設に関する提案
- ・トキとコウノトリの採食場所となりうるビオトープ整備について（報告）
- ・3社によるトキ野生復帰支援の取組、むすび営農組合による有機的水田農業の取組、出雲市環境にやさしい農業委員会の取組（報告）

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・最も懸念される「冬場の餌不足」に対応するため、冬期湛水やふゆみずたんぼ等の手法が有効だが、水を溜めたままにすると翌春に大型機械が入れなくなるため、水管理の加減が非常に難しい。
- ・ビオトープはトキやコウノトリの餌場としてだけでなく、幼稚園児が自然に触れ合う地域教育の場としても役立っている。
- ・出雲市としては、「休耕田を活用したビオトープ」と「稲作とともに維持されるビオトープや江」の2つの方向性で補助金等の制度構築を検討している。
- ・地元企業と連携したトキのイラスト入りグッズ（お茶など）の制作にとりこんでいきたい。

◆農地管理の担い手不足解消に向けた検討

- ・コウノトリの会春殖による「しまっち！」の活用状況報告
- ・つちのと舎による「島根大学1000時間体験学修」の活用検討と実施報告
- ・稗原地区におけるセブン-イレブン記念財団「セブンの森」との連携に関する検討報告

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・「しまっち！」の活用により外部からの参加者やリピーターが定着しつつあり、人とのご縁や活動の情報発信につながっている。
- ・「トキ」や「コウノトリ」は、外部の人に関心を持ってもらい、地域を盛り上げるための絶好のシンボル（付加価値）になっている。
- ・受け入れ側の高齢化が進んでいるため外部の支援をうまく活用していきたい。
- ・外部の交流人口を増やすだけでなく、地元を離れて市街地に住む子どもたちに親を通じて手伝いを呼びかける「最も身近な担い手」を増やす手法も取り入れていきたい。

トキ・コウノトリの採食環境としてのビオトープ整備

 : 2025年度整備箇所



- サントリー世界愛鳥基金（（公財）日本鳥類保護連盟申請事業）を活用し、協力・連携団体によりビオトープ整備が行われた。

新規

新規

上橋波 土水路ビオトープ（出雲市佐田町上橋波）

- 実施主体：（農）橋波アグリサンシャイン ・ NP0法人いずも朱鷺21
- ・ 圃場内に土水路（江）を掘削し（4区画・約188m）、常時湛水域を整備



整備前（2025.6撮影）



整備後（2026.3撮影）



岩倉ビオトープ・岩倉田んぼダムビオトープ（出雲市稗原町）

補修

- 実施主体：（農）みどり営農組合 ・ NP0法人いずも朱鷺21

- ・ 休耕田ビオトープ（2022年度整備）
- ・ 休耕田田んぼダムビオトープ（2023年度整備）
- の泥上げ、再掘削

※常時湛水しており、
水鳥類等の休息場所として
活用されている



整備前（2026.1撮影）



整備後（2026.3撮影）



整備前（2026.1撮影）



整備後（2026.3撮影）

佐田町大呂ビオトープ（出雲市佐田町大呂）

- 実施主体：桐原辰利氏 ・ NP0法人いずも朱鷺21
- ・ 休耕田（2区画5a）をビオトープとして整備



整備前（2025.11撮影）



整備後（2026.2撮影）

野尻の郷ビオトープ（出雲市野尻町）

新規

- 実施主体：（農）野尻の郷

- ・ 圃場内に土水路（江）を掘削し（1区画約47m）
常時湛水域を整備



整備前（2025.11撮影）



整備後（2026.2撮影）

◆農地管理の担い手不足解消に向けた検討

◇「しまっち！」の活用

((公財)ふるさと島根定住財団運営の
関係人口マッチング交流サイト)

<経緯>

- ・2021年10月「しまっち！」開設
- ・2021年度(令和3年度)・2022年度(令和4年度)
「しまっち！」担当者をワーキングに招請。
- ・2023年度、コウノトリの会春殖と具体化に向けて協議開始。水鳥プロジェクト事務局が仲介および登録内容の検討等をサポート。

コウノトリの会春殖(雲南市)

- 2023年6月に登録・活用開始
- 2026年度は4月、6月に
ビオトープ整備プログラムを実施
- 延べ7名が参加
- 毎年6～7名の参加あり
- リピーターによる継続的な支援



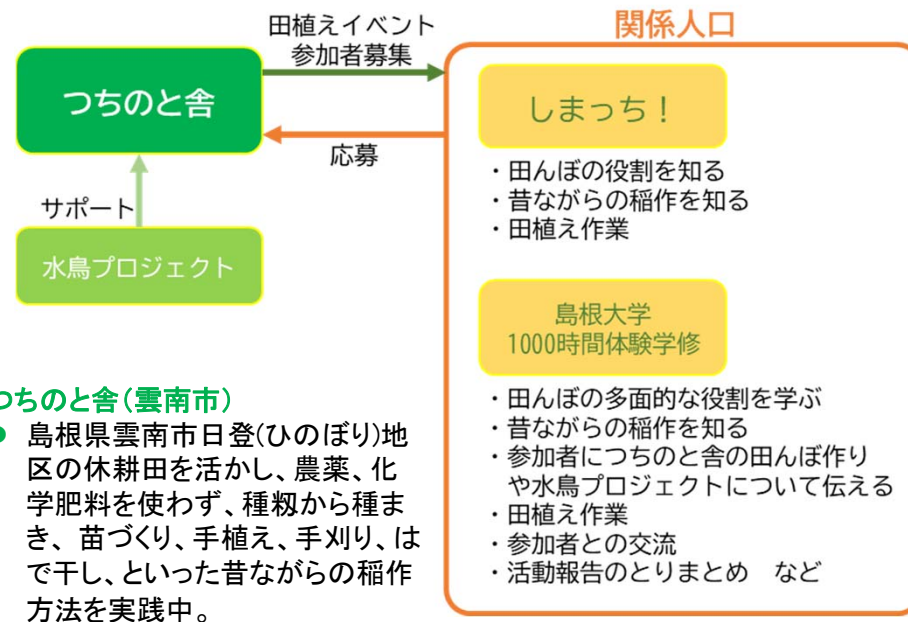
◇島根大学「1000時間体験学修」の活用

(教育学部の必修プログラム。教育実践力を培うことを目的として多様な体験活動に参加するもの)

<経緯>

- ・2024年3月島根大学に連携相談。「1000時間体験学修」について情報提供を受けた。
- ・担い手不足解消の手法の1つとして活用に関する検討を開始。
- ・関係団体に打診を開始。2026年1月、つちのと舎による試行が決定。

つちのと舎(雲南市)



- 田植えイベントを「体験学修」として申請・登録
- 実施日: 2026年6月6日・7日 (4回生2名、1回生3名の計5名が参加)
- 学生の感想(抜粋)
 - ・単なる田植えだと思っていたが、田んぼのこと、地域の自然のことを学べて有意義だった。
 - ・水鳥を通して島根県という場所を知ってもらう取組も面白いと思った。
 - ・県内外からの参加者と交流して、自分の世界が広がった気がした。

◆農地管理の担い手不足解消に向けた検討

◇セブン-イレブン記念財団「セブンの森」との連携の検討

<経緯>

- ・2025年に同財団から(公財)日本生態系協会に対して、「セブンの森」候補地について情報提供依頼あり。
- ・同協会からの島根県内での「セブンの森」連携提案を受け、地元団体と検討中。

農事組合法人 野尻の郷(出雲市)

- 稗原の野尻地区では、トキの採食環境となりうるビオトープ整備が5年前から進められている
- トキ放鳥予定地である稗原地区で「稗原指定棚田地域振興協議会」が受け皿となり、ビオトープ管理や周辺の環境整備を活動の軸として進めることを検討
- セブン-イレブン財団と協議中

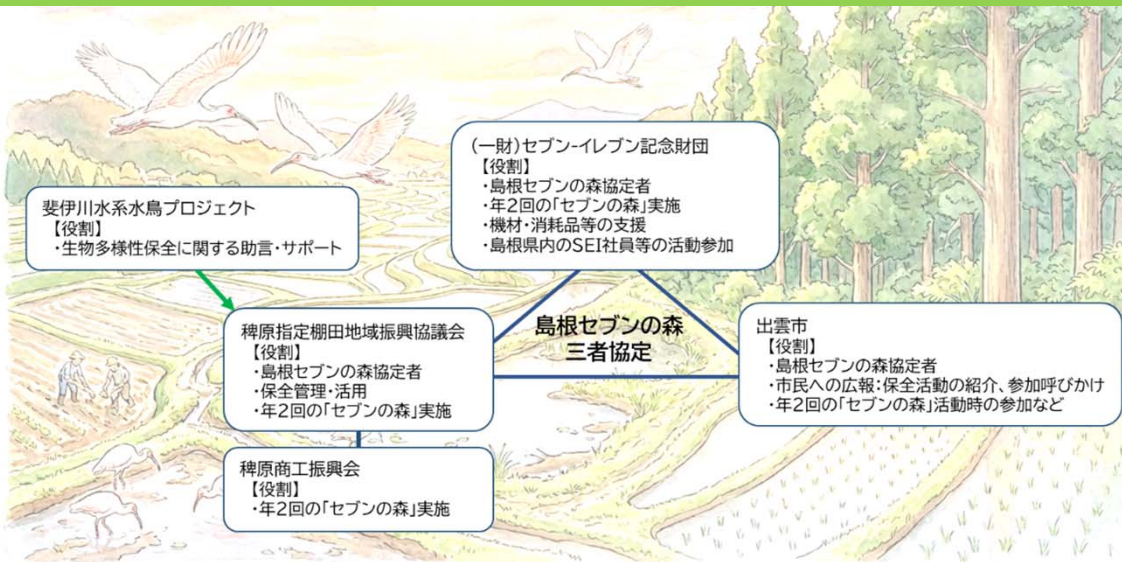
「セブンの森」とは:

セブン-イレブン記念財団が展開している「環境」をテーマにした社会貢献活動の1つ。

「地域のニーズに合わせた長期的な計画(基本10年間)」に基づき、全国31カ所(2025年2月時点)で多様な活動を展開している。

活動に対する費用支援に加え、年2回、本部社員や地域の加盟店オーナーらがボランティアとして人的な作業支援を行う。

島根セブンの森「(仮)トキが舞う里山プロジェクト」(案)



背景と活動の目的

- 出雲市でのトキの野外放鳥が決定(令和9年度・放鳥場所:稗原地区)
- 稗原地区では、これまでトキの採食場所となりうるビオトープ(生物の生息空間)の整備に取り組んできている。
- これまでの活動を基盤として、野尻・山寄・市森をはじめとした里山において、休耕田ビオトープや「江(土水路)」の創出・維持管理、除草剤の使用を抑えた畦(あぜ)の管理、圃場周辺の環境整備を継続し、トキの食べ物となる水生生物や昆虫などが豊かに息づく、多様な生態系の保全と創出を目的とする。
- 将来的には「トキが舞う里山」として親しまれるよう、里山を見渡せる展望スポットや周辺の環境整備も並行して行い、生物多様性の向上だけでなく、出雲市が掲げる「トキも人も育つまちへ」というスローガンを実感できる、次世代に誇れる地域づくりを目指す。

今後の方向性

人と自然にやさしい水田農業に向けた取組

- ・ 「人と自然にやさしい水田農業の工夫」を紹介するウェブサイトの頁新設を進める
- ・ 大型水鳥類の採食場所の広域的な確保に向けて、関係自治体等との連携を拡充する

担い手不足解消に向けた取組

- ・ 新たな連携構築に向け、外部主体の情報収集と協働提案を進める。
- ・ 外部主体との連携事例を踏まえ、関係団体と外部団体との連携支援について展開の可能性を検討する

3. 地域振興ワーキング報告

観光振興

地域ブランド確立

地方創生

(1) ワーキング開催概要

2025年12月25日に、斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上および、大型水鳥類を活用した観光振興について意見交換を行った。

日 時	2025年12月25日（木）14:00～15:30		
場 所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加 メンバー	（株）山陰中央新報社 編集局政経部 デスク	舟越 幹洋	
	中海・宍道湖・大山圏域観光局 代表理事	吉川 浩二	
	矢田醤油店	矢田 敦子	
	出雲国ジオガイドの会 会長	渡邊 一枝	
	株式会社出雲村田製作所 管理部総務課	吉川 ひかり	
	島根島津株式会社 管理部	長妻 久美	
	株式会社島根富士通 品質保証部	松重 励	
その他	協議会参加自治体の関係部署 （環境省、鳥取県、島根県、松江市、出雲市、雲南市）		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	（公財）日本生態系協会		
議題	①斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上について ③大型水鳥類を活用した観光振興について		

(2) 主な議事内容

◆斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上について

- ・認知度向上に向けた取組について事務局、出雲市、雲南市、3社トキ支援プロジェクトから報告を行った後、認知度向上と、関心を持った人に具体的なアクション（参加）を促すための方法について、グループディスカッションを行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・抽選でお土産のあたるキャンペーンの実施や、若い年齢層が扱いやすいLINEスタンプの活用など、水鳥プロジェクトとの接点のハードルを下げる工夫があるといい。
- ・神話と自然を結び付ける等のストーリーをつくり、発信してはどうか。
- ・参加者が「自分も役に立っている」と実感できる作業や観察会の場を創出するとよいのではないかな。
- ・子どもを通じて親世代への波及を狙うなど、次世代および多世代へのアプローチが必要。
- ・関心を持った人がすぐに次の活動を探せるよう、欲しい情報が一ヶ所に集約され、発信される場があるといい。
- ・ワーキングメンバー自身がSNSで積極的に拡散したり、マスコミ取材、インフルエンサーへの参加要請などを通じた周知活動が必要。

◆大型水鳥類を活用した観光振興について

- ・出雲国ジオガイドの会主催による斐伊川河口の水鳥観察ツアーの実施報告および、安来まちゼミを活用したハクチョウ講座の2024年度実施結果と2025年度予定について報告、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- ・（斐伊川河口ツアー）ツアー情報に対して、都市圏（東京、大阪、神奈川など）からのアクセスも見られたことから、「神迎（11月）」の時期に出雲を訪問する観光客に向けた魅力的なメニューを提供していくとよい。

◆斐伊川水系水鳥プロジェクトの認知度向上について

認知度向上に向けたツール

<ポスター>

◆斐伊川水系水鳥プロジェクトを、視覚的に印象付けられるポスターを作成



<ポップアップカード作成キット>

◆ワークショップなどで活用可能な子ども向けのツールとして制作

◆斐伊川流域の田んぼをイメージした背景を描いた台紙に、大型水鳥のイラストを自由に貼ってつくる



<大型水鳥等身大ブランケット>

◆シンボル種であるコハクチョウとトキの実物の大きさを体感できるツールとして制作 ※(公財)日本生態系協会が製作



イベントの活用

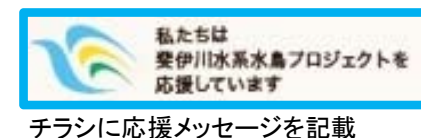
<中海・宍道湖ラムサール20周年フェスタ>

イベント名	中海・宍道湖ラムサール20周年フェスタ
日時	2025年11月16日(日) 10:00~16:00
会場	松江テルサ(松江市)
主催	島根県・鳥取県



<第1回やすぎシグネットフェスティバル>

イベント名	第1回やすぎシグネットフェスティバル
日時	2026年2月7日(土)・8日(日)
会場	安来市総合文化ホール アルテピア(安来市)
主催	やすぎシグナスフェスティバル実行委員会
協力	大阪健康福祉短期大学
後援	島根県、安来市、安来市観光協会、(公財)日本生態系協会 他



関係主体との連携



<(株)出雲村田製作所・(株)島根富士通・島根島津株)>

※地元企業3社によるトキ放鳥支援プログラム

3社は2022年6月に「地域創生SDGsプロジェクト」を始動。3社共同プロジェクトとして若手社員を中心に活動。2023年6月に同プロジェクトの環境チームが、出雲市トキの放鳥プロジェクトへの協力を発表し、現在「トキ放鳥支援プログラム」を展開中。

◆水鳥プロジェクトで製作した指標種等身大パネルの複製を、3社プロジェクトで製作し、イベント開催時に展示

◆出雲村田製作所 社内売店で、水鳥プロジェクトコラボ商品の販売に向けて、現在協議中

◆大型水鳥類を活用した観光振興について

斐伊川河口エリア

イベント名	ジオガイドと行く出雲平野の鳥発見ツアー タタラの砂が→水鳥を呼んだ？ 壮大なるマガンのねぐら入りをジオガイドと読み解く！
日時	2025年11月8日(土)・15日(土)・30日(日) 2025年12月6日(土)・13日(土) 各日15:00～18:00頃
集合場所	出雲コミュニティセンター（出雲市斐伊町） ※JR荏原駅まで送迎あり
参加人数	※定員10名（ガイド2名体制） 【第1回】8名（大人5、子ども2、幼児1） 【第2回】0名/不催行 【第3回】2名（大人2） 【第4回】8名（大人8） 【第5回】3名（大人3）
参加費	大人（中学生以上）1,500円／子ども（小学生以上）500円
主催	出雲国ジオガイドの会
協力	（一社）出雲観光協会・斐伊川水系水鳥プロジェクト



◆2025年度から「出雲国ジオガイドの会」主催

◆水鳥プロジェクト事務局では、ガイドを対象に事前研修を実施した他、企画、広報等についてサポート

◆単なる野鳥観察ではなく、ジオガイドによる斐伊川流域の地形の成り立ち等の解説があることがツアーの特徴

◆参加者からは高い評価（お勧め度平均 9.4点）

◆2025年度の課題・反省を踏まえ、コース設定や解説内容などの見直しを前提に、2026年度ツアーを準備中

中海エリア

◆2023年度から「安来まちゼミ」を活用して、ハクチョウをテーマとした講座を市民向けに開催しており、2025年度は3日間開催

◆2026年度夏季講座として、安来市内の「さぎの湯温泉 さぎの湯荘」と連携し、サギをテーマとした講座を初開催

イベント名	安来まちゼミ「知っているようで知らないハクチョウ講座」
日時	2026年2月3日(火)・6日(金)・11日(祝) 17:00～18:30
集合場所	矢田醤油店
参加人数	2月3日：4名 6日：6名 11日：9名（うち子ども5名）
参加費	300円（味噌汁材料代）
主催・協力	矢田醤油店 ・ 斐伊川水系水鳥プロジェクト
講座内容	・ハクチョウについてレクチャー後、近隣のふゆみず田んぼに移動し、ハクチョウのねぐら入りを観察

イベント名	安来まちゼミ「鷺とさぎの湯温泉の魅力再発見！ミニツアー」
日時	2026年7月10日(金) 10:30～12:00
集合場所	さぎの湯荘玄関前
参加人数	1名（申込者3名）
参加費	800円（温泉入浴代）
主催・協力	矢田醤油店・ さぎの湯荘／斐伊川水系水鳥プロジェクト
講座内容	・さぎの湯温泉の歴史を学んだ後、マイクロバスでサギのコーニーに移動してサギの生態も学び、サギづくしのミニツアー



（左）
ハクチョウ講座



（右）
サギミニツアー

今後の方向性

認知度向上に向けた取組

- ・水鳥プロジェクトに関心を持つ層を、能動的な関与層に引き上げるための方策の検討を進める
- ・新たな連携構築に向け、外部主体の情報収集と協働提案を進める

大型水鳥類を活用した観光振興

- ・出雲国ジオガイドの会による野鳥ツアーの持続的運営に向けたサポートを継続する
- ・安来エリアの観光振興の拡大に向け、地元事業者等との連携拡大を図る

4. 環境学習ワーキング報告

(1) ワーキング開催概要

2026年6月17日に、小学校の先生や環境学習の担い手をまじえ、今後の環境学習の推進に向けた取組について意見交換を行った。

日 時	2026年6月17日（水）14:00～15:50		
場 所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加 メンバー	（公財）ホシザキグリーン財団 普及啓発課 課長	岩西 哲	
	宍道湖グリーンパーク		
	出雲市 農林水産部 農業振興課 課長補佐	大國 和久	
	島根県立情報科学高等学校 教員	大澤 彩子	
	出雲市立稗原小学校 校長	加藤 日出夫	
	（公財）中海水鳥国際交流基金財団 常務理事	神谷 要	
	米子水鳥公園ネイチャーセンター 館長		
	（公財）しまね自然と環境財団	星野 由美子	
その他	島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課長		
	矢田醤油店	矢田 敦子	
	キコニアまなびネット 代表	和田 邦子	
	協議会参加自治体の関係部署、環境省		
議題	国土交通省 出雲河川事務所		
	（公財）日本生態系協会		
議題	・斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想と環境学習ワーキングについて		



(2) 主な議事内容

◆全体構想と環境学習ワーキングについて

短期目標評価結果（案）を紹介し、その後に2025年6月のWG等を通じて整理した、環境学習推進上の三つの問題点を提示した（以下）。

- ・「環境学習プログラム集」の認知度や水鳥を活かした学習に対する意識の低さ
- ・使いやすいツールの不足
- ・幅広い層へのアプローチ不足

これらの問題に対応した水鳥プロジェクトの取組を紹介した（次ページ）のち、参加メンバーより取組の紹介、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの報告・意見等

1. 環境学習の展開について

- ・環境学習を学校の授業に入れてもらえるよう、事務局からも働きかけをいただいている。ただそうしたサポートがあっても、授業実施まで至らないことがある。この辺りはまだ手探り状態（プログラム提供者）。
- ・今年になって学校のキャッチフレーズ「ときめき ひえばらっこ」を新たに作った。こちらを受けて子どもたちが、トキのために何かできないか、色々なことを考えている様子。和田先生や星野先生にもまたご助力いただきたい（学校）。
- ・近年、市内の児童クラブや放課後デイサービスといった施設の長期休み期間中の利用が増えている。嬉しい反面、生き物が活発になる夏は熱中症対策のため野外での学習がしづらくなっている問題がある（プログラム提供者）。
- ・生徒が地域の自然について学ぼうとすると、学校の先生やインターネットでの情報のみでは限界がある。専門的知見を持つ団体の支援はありがたい（学校）。
- ・情報科学高校の取組は大変興味深かった。小学校の授業の中での環境学習は単発になりがちだが、年齢や発達段階に応じ、地域探究活動等へ継続して関わってほしいよう、学校や環境学習の担い手が縦のつながりを意識していくことが大事と感じた（プログラム提供者）。

2. 使いやすいツールについて

- ・こうした先生や環境学習の担い手の集まる場で、事務局や参加者が作成したツールを紹介しただけのはありがたい（プログラム提供者）。
- ・高校生に学びの一環としてツールを作ってもらう取組は面白い。今後も継続できると良い（プログラム提供者）。
- ・大型水鳥がより身近になってくると、次の段階として「トキやコウノトリは外来種ではないか？」といった誤解を持つ人が現れ始める。少し後ろ向きな考えに対し、指導する立場の先生たちが利用可能な「問答集」があると良い（プログラム提供者）。

◆環境学習プログラムの周知・活用

◇ 山陰合同銀行との連携

自然を守り育てる活動への理解を行員に深めてもらうための講座を実施したいとの依頼を受け、環境学習の担い手と連携し開催。

開催日：2026年2月14日（土） 13:00～

場 所：米子水鳥公園、安来市宇賀荘の水田



米子水鳥公園でスライドと展示物を用い室内講座



米子水鳥公園でバードウォッチング



ファーム宇賀荘他で現地視察

受講者からの感想（一部）

- 山陰の自然資源の一つを深く理解することができて良かった。
- 生態系のこと、コハクチョウの生態について学び、観察できたこと、こうした自然が当たり前ではないことに、改めて気付かされた。

◇ 教育機関への働きかけ

- 県の教育機関ウェブサイトを通じたプログラムの周知ができないか、鳥取県教育委員会、島根県教育庁等と協議を実施。
- 出雲市の複数の小学校に個別にヒアリングを行い、プログラムの活用可能性等について情報収集を実施。

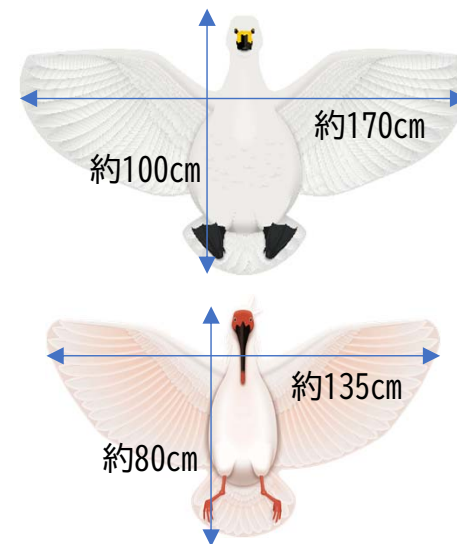
◆新規ツールの検討と活用

◇ 展示素材の作成

学校の教室や廊下等での掲示を想定した、等身大サイズの大型水鳥ポスター

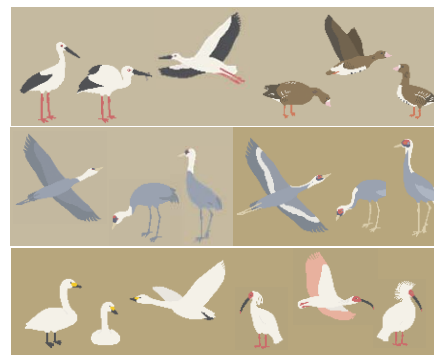


壁面掲示の他、羽織ることもできる等身大大型水鳥のブランケット



◇ 参加型アクティビティ素材の作成

水田を背景に描いた台紙に、シンボルである大型水鳥のイラストを貼って作成する、オリジナルポップアップカード



大型水鳥イラスト18種



作成例

◆多様な主体との連携

◇ 島根県立情報科学高等学校との連携

水鳥プロジェクトからの協働提案が採用され、2025年4月から1年間協働。



◇ 島根大学での講義

斐伊川流域の自然の魅力や、水鳥プロジェクトの取組を紹介する講義を実施。

- ・ 受講者：島根大学の主に1～2年生 約120名
- ・ 講義テーマ：島根の自然を知る～斐伊川水系の自然と生態系ネットワークの取組～
- ・ 2024年度、2025年度実施



受講者からの感想（一部）

- ・ 日本で見られる大型水鳥5種群すべてが見られる可能性に驚き、地元の魅力を再認識した。
- ・ 島根がいかにも自然豊かかを感じ、そんな場所に今暮らせていることを少し誇りに思った。

◇ 安来まちゼミ「ハクチョウ講座」の継続実施支援

矢田醤油店により、2026年2月に3回実施。水鳥プロジェクトは講義内容に関する情報提供、当日取材等の支援を行った。



ハクチョウの
ねぐら入りを観察



情報科学高校水鳥班の
紙芝居も実演



※安来まちゼミ：安来商工会議所主催。市内事業者が講師となり各種市民向け講座を開催。

今後の方向性

プログラム活用に向けた教育機関等への働きかけ（継続）

- ・ プログラム集、ウェブサイトを通じた働きかけの他、教員研修や学習部会の場合等を活用し、大型水鳥類を活用した環境学習の魅力や有用性について周知を図る。
- ・ 小中高を通じての環境学習の継続性を保つために、これまでアプローチできていなかった中学校の課程における環境学習の展開可能性について情報収集を進める。

環境学習の担い手が使いやすいツールの開発・提供方法等の検討

- ・ 学びの段階に応じた教材やツールの作成についても検討する。
- ・ 今年、ウェブサイトを通じて水鳥パネル、等身大パネルを貸し出す体制を整備した。他のツールについても、希望者に貸し出すことのできる体制づくりを進める。